

第2回かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト 協議会議事録

【日時】 令和8年7月16日（木）14時～15時30分

【場所】 鹿児島労働局 西千石庁舎 別館3階会議室

(事務局)

開会前ではございますが、会議に先立ちまして、配付資料の確認をお願いしたいと思います。

表紙に「第2回かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会」と記載してあるホチキス止めによる会議次第等の他に、インデックスを付けた資料、【資料1】【資料2①②③】【資料3】【資料4】【資料5】をお配りしております。不足等はないでしょうか。

また、当会議の終了後、経済団体の方々には引き続き、「公正採用選考人権啓発協力員会議」へのご出席もお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは、定刻前ではございますが、皆さまお揃いのため、ただいまから第2回「かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会」を開催いたします。

私は、本日の会議の進行を務めさせていただきます「鹿児島労働局訓練課の木之下」と申します。皆さまにご協力いただきながら、円滑な議事進行に努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、労働局長の永野からご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

(鹿児島労働局 永野局長)

皆さん、こんにちは。労働局長の永野でございます。第2回かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日はご多忙のところ、本協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、委員の皆さまには、日頃から労働行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

就職氷河期世代の方々への支援につきましては、これまで「就職氷河期世代活躍支援かごしまプラットフォーム」において、関係機関・団体の皆さまと連携しながら、就労支援や処遇改善、社会参加に向けた支援など、地域一体となった取組を進めてまいりました。令和7年度からは、国の方針を踏まえ、就職氷河期世代を含む、不安定な就労を繰り返し就職に支援が必要な35歳から60歳未満の中高年世代への支援へと支援対象を広げ、「かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会」として、安定就労の実現と活躍の場の拡大に向けた取組を進めているところでございます。

本年度は、今年4月に策定された「新たな就職氷河期世代等支援プログラム」を踏まえ、「不安定な就労状態にある方」、「就業を希望しながら長期にわたり無業の状態にある方」、「社会参加に向けた支援を必要とする方」を対象に、相談、リ・スキリング、職場見学・体験、就職、職場定着まで、切れ目のない支援を進めていくこととしております。支援を必要

とする方々の中には、雇用の不安定さや長期無業、ひきこもり状態など、様々な事情を抱える方もおられることから、一人ひとりの状況や希望に寄り添った支援を届けていくことが重要であると考えております。

鹿児島労働局といたしましても、ハローワークの専門窓口を中心とした個別支援、関係機関との連携による職業的自立支援、企業に対する求人確保や処遇改善の働きかけ、各種支援策の周知広報などを通じて、中高年世代の方々がそれぞれの状況に応じて活躍できる環境づくりに取り組んでまいります。委員の皆さまにおかれましても、引き続き、各機関・団体の強みを活かした連携により、必要な支援が支援対象者に確実に届くよう、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、令和7年度の取組状況及び令和8年度の事業実施計画等についてご説明させていただくとともに、委員の皆さまから忌憚のないご意見を頂戴したいと存じております。

結びに、本協議会での活発なご議論をお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

議事に先立ちまして、ご出席の皆さまをご紹介すべきところですが、時間の都合もございます。誠に恐縮ではございますが、お配りしています会議次第等の3ページ出席者名簿と4ページの座席図により、ご紹介に代えさせていただきます。

また、本日は、専門窓口を設置しているハローワークかごしま・ワークプラザ天文館の職員も出席しております。

なお、本日は構成員のうち、県精神保健福祉センターの委員は都合により欠席となっておりますので、ご了承ください。

本日の会議は、報道機関にも公開しています。配付資料についても公開いたしますので、ご了承ください。会議の内容につきましては、厚生労働省に報告の上、後日、労働局ホームページに議事録を掲載しますので、併せてご了承願います。

それでは議事に入ります。

議題(1)「かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会設置要領」の改正について事務局より説明をお願いします。

(鹿児島労働局 松山訓練課長)

鹿児島労働局職業安定部訓練課の松山と申します。本日はよろしくお願いいたします。

私の方からは、「かごしま中高年世代活躍支援プロジェクト協議会設置要領(案)」についてご説明させていただきます。

第2回かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会資料の【資料1】をご覧ください

い。

まずは、1 ページの 1 の趣旨になりますが、冒頭の 1 行目から 6 行目のみを読み上げさせていただきます。

いわゆる就職氷河期世代の方々への対応については、これまで、「経済財政運営と改革の基本方針 2019」に盛り込まれた「就職氷河期世代支援プログラム」の下、令和 2 年より、関係機関や団体を構成員とする「就職氷河期世代活躍支援かごしまプラットフォーム」を設置し、官民が協働して鹿児島県内の就職氷河期世代の支援に地域全体で取り組む気運を醸成するとともに、支援策の取りまとめ、進捗管理等を統括し、令和 6 年度までの約 5 年間の集中支援に取り組んできました。

そのような中、今般、1 ページ目の趣旨の中程に朱書きで記載がございますが、今後は、政府において「新たな就職氷河期世代等支援プログラム」が策定されたことを踏まえ、当該プログラムの関連施策を活用し、支援に取り組んでいく必要がある、旨を追記しております。

続きまして、3 ページの 4 の取組事項についてです。

下の方の「(3) 目標、KPI の設定及び事業実施計画の策定」につきましては、①で今回支援対象者ごとの取組に係る目標達成に向け、年度毎の KPI を設定し、さらに②で目標を達成するため、今回の資料として添付させていただいております「中高年世代活躍応援プロジェクト都道府県協議会事業実施計画策定指針」に基づき、後ほどご説明させていただきます事業実施計画を策定するという表現に変更しております。

最後に、4 ページの 5 の協議会の会議運営についてですが、もともと開催回数や必要に応じた追加開催については記載がございましたが、今回新たに開催時期の目安について追記させていただいております。

以上をもちまして、「かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会設置要領」の改正案として提案させていただきます。

(事 務 局)

ただいまの説明に関しまして、ご意見ご質問等ございませんでしょうか。

特にご意見などなければ、「中高年世代活躍応援プロジェクト協議会設置要領」についてはご承認いただくということでしょうか。

ありがとうございます。それでは【資料 1】の(案)の文字を削除していただければと思います。

それでは、続きまして、議題(2)「令和 8 年度かごしま中高年世代活躍支援プロジェクト協議会事業実施計画(案)」について事務局より説明をお願いいたします。

(鹿児島労働局 山崎訓練課長補佐)

鹿児島労働局訓練課の山崎と申します。私の方から「かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会事業実施計画(案)」について説明させていただきます。

それでは、【資料2①】「事業実施計画(案)」及び【資料2②】「KPIの数値の考え方」について、前回協議会からの主な変更点についてご説明いたします。

変更箇所につきましては、朱書きで表示しております。

1 ページ目をご覧ください。【資料2③】の別添資料にありますとおり、国において、本年4月に「新たな就職氷河期世代等支援プログラム」が策定されたことを踏まえ、その内容を追記しております。

2 ページ目をご覧ください。事業計画実施期間について、「年度単位とすること」を追記させていただきました。

次に、支援対象者および現状についてです。前回の協議会でお示しした推計値につきましては、「2017年就業構造基本調査」とJILPTの「若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状」を基に算出したものでしたが、今回お示しする推計値は、「令和4年就業構造基本調査」とJILPTの「若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状④」の結果を用いて再算出したものです。

鹿児島県における不安定な就労状態にある方は、推計で9,500人、人口比2.0%となっており、前回の15,000人、人口比3.0%から大きく減少しております。また、全国平均についても、3.3%から2.5%へ低下しておりますが、本県の割合は全国平均を0.5ポイント下回る状況にあります。さらに、【資料2③】の別添資料26～27ページの都道府県別データによりますと、本県の人口比2.0%は全国で4番目に低い水準となっております。

鹿児島県における「長期にわたり無業の状態にある方」(35歳から49歳)は、推計で8,200人、人口比1.7%となっており、前回の5,861人、人口比1.2%から増加しております。また、全国平均の人口比1.4%を上回る状況となっており、本県における長期無業者への支援の重要性が引き続きうかがえる結果となっております。

なお、社会参加に向けた支援を必要とする方の推計値につきましては、基礎資料としている「鹿児島県人口移動調査(令和7年10月1日)」が、本年9月の公表予定となっております。そのため、現時点では推計値の見直しは行わず、前回と同じ数値を使用しております。

8 ページをご覧ください。(4) 全般的事項の具体的取組において、鹿児島労働局が所管する各種助成金及びJEEDが所管する助成金に関する内容を追記しております。このほか、交付金事業につきましては、鹿児島県が実施する「長期無業者等就職促進・定着支援事業」について、今年度は「地域就職氷河期世代等支援推進交付金」を活用します。

次に、各支援対象者に係るKPIについてです。KPI(案)をご覧ください。

まず、「不安定就労状態にある方」に対する支援では、ハローワーク紹介による正規雇用就職件数は2,046件、キャリアアップ助成金活用による正社員転換件数を281件としております。特にキャリアアップ助成金については、今年度から35歳から59歳の対象者に限

定して把握することとし、過去2年間の実績平均を基に設定しております。

また、求職者支援訓練の就職率、トライアル雇用終了者の常用雇用移行率、特定求職者雇用開発助成金利用者の継続雇用率については、【資料2③】の別添資料の16ページにあります、国の「新たな就職氷河期世代等支援プログラム」のKPIを踏まえ設定しております。

次に、「就業を希望しながら長期にわたり無業の状態にある方」への支援についてです。サポステ関係のKPIにつきましては、相談件数1,032件、新規登録60件、進路決定44件としております。相談件数については、前年度実績は目標を下回りましたが、利用促進の取組を継続する観点から前年度と同水準の目標値としております。また、ここリスタ支援室については、相談件数1,800件、新規登録100件、進路決定38件としております。これらは、地域就職氷河期世代等支援推進交付金事業計画において設定した数値を反映しております。

さらに、「社会参加に向けた支援を必要とする方」に係るKPIにつきましては、市町村プラットフォームの設置を引き続き全43市町村としております。令和7年度末時点で38市町村が設置済みであり、未設置の市町村に対して引き続き働きかけを行い、全市町村での設置を目指してまいります。

以上が前回からの主な変更点となります。基本的な事業の方向性や支援内容に大きな変更はなく、国の新プログラムを踏まえながら、各種KPIを更新し、引き続き関係機関が連携して中高年世代の就労支援・社会参加支援に取り組むこととしております。

以上で案の提案をさせていただきます。

(事務局)

ただいまの説明に関して、ご意見・ご質問などございませんでしょうか。

特にご意見などなければ、「令和8年度かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会事業実施計画」についてはご承認いただくということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、【資料2】(案)の文字を削除してください。

続きまして、議題(3)、「令和7年度事業実施状況報告及び令和8年度の取組について」、はじめに鹿児島労働局、次に鹿児島県の順で説明をお願いいたします。

(鹿児島労働局 山崎訓練課長補佐)

鹿児島労働局訓練課の山崎です。前回の協議会にてご案内していたとおり、今年度より、各構成員の取組実施状況等について情報共有の場とするため、皆さまには、ご報告にご協力いただきありがとうございました。

それでは、鹿児島労働局における、令和7年度の実施状況及び令和8年度の取組内容、あわせて令和7年度のKPIの達成状況についてご説明いたします。

【資料3】の1ページ目をご覧ください。まず、不安定な就労状態にある方への支援につ

いてです。ハローワーク鹿児島及びハローワーク国分に設置している「35 歳からのステップアップ窓口」において、個別支援計画を作成した上で、キャリアコンサルティング、各種セミナー、公的職業訓練へのあっせん、求人開拓、就職後の定着支援まで、一貫した伴走型支援を実施しました。

令和 7 年度の実績として、専門窓口の新規登録者数は 1,869 人、相談件数は 12,505 件、正社員紹介就職者数は 625 人となっています。また、チーム支援では、新規登録者数 282 人、相談件数 3,888 件、正社員紹介就職者数 139 人となり、職場定着支援については、対象者 79 人のうち、6 か月定着者が 49 人、定着率は 62%となりました。令和 8 年度につきましても、引き続き、伴走型支援を実施し、関係機関と連携しながら、支援対象者一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな支援に取り組んでまいります。

次に、鹿児島新卒応援ハローワーク及びキャッチワークかごしまとの連携によるワンストップ支援についてです。令和 7 年度は、キャリアコンサルティングについて、支援対象者 3,013 人、就職者 913 人、うち正社員就職者 679 人という実績となりました。このうち 35 歳以上の方は、約 1 割を占めていました。また、キャリアアップセミナーについては、支援対象者 806 人、就職者 254 人、正社員就職者 97 人となっており、このうち 35 歳以上の方が約 8 割を占めております。令和 8 年度もキャリアコンサルティング及びキャリアアップセミナーの実施を継続してまいります。

次に、職業訓練の実施・強化、スキルアップ支援についてです。令和 7 年度は、専門窓口と職業訓練部門が連携し、公共職業訓練や求職者支援訓練に関する情報提供及び受講あっせんを行いました。また、委託事業として、先着 100 名を対象に、無料で受講できる e ラーニングを提供し、4,586 コースを用意したところ、利用申込者は 101 名となりました。人気講座としては、日商簿記 3 級、FP3 級、はじめての簿記、社会保険労務士、実務で役立つ簿記の知識でした。令和 8 年度は、ミドルシニア専門窓口と職業訓練部門との連携をさらに強化し、公共職業訓練及び求職者支援訓練の情報提供、受講あっせんを行います。特に、ハローワークのデータを活用し、年齢や性別を踏まえつつ、賃金上昇につながる転職や処遇改善に資する公的職業訓練等の情報提供を行ってまいります。また、e ラーニングについては、対象者を 150 名、4,868 コースに拡充しております。資料の 19～20 ページにつきましては、「働きながら学びやすい職業訓練」のリーフレットになります。21～22 ページについては、厚生労働省のキャリア形成・リスクリニング推進事業にて、40 代後半以降の方対象の「ミドル・シニアいきいきキャリアプラン塾」のリーフレットとなっております。

次に、就職、正社員への転換支援についてです。令和 7 年度は、委託事業として、求職者向けセミナーと合同企業説明会を組み合わせた「就職応援フェア」を 2 回開催しました。第 1 回はセンテラスホールで開催し、セミナー参加者は 56 名、合同企業説明会の参加企業 24 社、参加者 91 名でした。なお、フェアの様子につきましては、24 ページに掲載しております。第 2 回はカクイックス交流センターで開催し、サポステとここリスタ支援室の共同でブースを出展しました。セミナー参加者は 66 名、合同企業説明会の参加企業 24 社、参加

者 82 名でした。満足度につきましては、就職応援フェア全体で、求職者 91.5%、企業 87.2%、セミナーについては求職者 87.2%と、いずれも高い評価をいただいております。フェア終了後の状況ですが、実際に説明を聞いた企業への面接に至った方が 10 名おられました。そのうち 1 名の方が採用につながっております。令和 8 年度も就職応援フェアを 2 回開催する予定です。第 1 回は鹿児島会場として 9 月 13 日にセンテラスホールで、第 2 回は霧島会場として 11 月 25 日に国分ハウジングシビックホールで開催予定です。ミドルシニア世代のためのキャリア形成やコミュニケーションスキル向上に関するセミナーと合同企業説明会を実施し、昨年度以上に、多くの方にとって「小さなマッチング」を生み出す場となるよう取り組んでまいります。現在、参加企業を募集しております。詳細につきましては、25 ページのリーフレットをご覧ください。

次に、助成金を活用した正社員化の促進についてです。ハローワークの窓口等において、特定求職者雇用開発助成金、キャリアアップ助成金等の周知を行い、中高年世代の正規雇用就職及び正社員転換の促進に努めました。令和 8 年 3 月末時点で、特定求職者雇用開発助成金については申請件数 164 件、キャリアアップ助成金の正社員化コースについては、正社員転換人数 777 人となっております。このうち 35 歳から 59 歳までの方は 333 人であり、前年度と比較して増加しております。令和 8 年度も、引き続き、各種助成金の周知に取り組んでまいります。

また、中高年世代の就職機会の確保を図るため、事業所に対して「ミドルシニア限定・歓迎求人」のメリットを周知し、求人確保に努めました。実績として、ミドルシニア限定求人が 61 件、歓迎求人が 1,387 件となっております。なお「ステップアップ求人情報誌」を毎月発行し、鹿児島労働局ホームページにも掲載することで、求職者への情報提供を行いました。委託事業として、企業向けセミナーを実施いたしました。14 社の企業に参加していただき、満足度 100%と高い評価をいただいております。令和 8 年度も、引き続き、限定求人及び歓迎求人の確保に取り組んでまいります。また企業向けセミナーについては、7 月 22 日実施予定です。詳細は 33 ページのリーフレットをご覧ください。構成員の皆さまには、7 月 2 日にメールにてリーフレットの提供をしております。たくさんの事業所の方に参加していただけるよう広報・周知にご協力をお願いいたします。

次に、就業を希望しながら長期にわたり無業の状態にある方への支援についてです。4 ページになります。専門窓口を設置しているワークプラザ天文館では、定期的にサポステと打合せを行うほか、サポステ支援員の同行による職業相談を随時実施しました。また、各ハローワークへの出張相談を実施し、鹿児島所では月 2 回、その他の所では月 1 回実施しております。令和 8 年度も、サポステ、ハローワーク、福祉関係機関等と連携し、個々の状況に応じた支援に取り組んでまいります。

また、専門窓口において就労に向けた段階的支援として、ステップアップセミナーを定期的に開催しました。令和 7 年度は 18 回開催し、参加者は 146 人でした。また、応募前職場見学を 115 件実施し、仕事内容や職場環境への不安軽減、就職後のミスマッチ防止に努め

ました。令和 8 年度も、支援対象者が不安を軽減しながら就職に向かえるよう、段階的な支援を行ってまいります。

次に、働き方改革や多様な働き方の推進についてです。鹿児島働き方改革推進支援センターを設置し、同一労働同一賃金の実現、時間外労働の縮減、子育てや介護と仕事の両立、テレワークの普及促進等に関する相談対応や、個別企業への取組支援を行いました。令和 7 年度は、相談件数 169 件、セミナー 43 回、訪問コンサルティング 373 回となっております。令和 8 年度も、同センターを引き続き設置し、非正規雇用労働者の待遇改善や、多様な働き方の推進等を通じて、雇用環境の整備を図ってまいります。

次に、社会参加に向けた支援を必要とする方、ひきこもりの方等への支援についてです。5 ページになります。専門窓口とサポステが連携し、職場見学や就労体験等の機会提供に努めるとともに、支援を必要とする方のペースを尊重しながら、社会参加から就労まで切れ目のない支援を実施しました。令和 8 年度も、専門窓口とサポステの連携を継続・強化し、支援を必要とする方の状況に応じた切れ目のない支援を実施してまいります。

最後に、周知・広報及び社会全体で支援する気運の醸成についてです。令和 7 年度は、かごしま協議会の設置要領等を鹿児島労働局ホームページに掲載するとともに、委託事業に係る特設サイトの周知、e ラーニングの無料提供、事業所向けセミナー、就職応援フェアの案内等について、構成員等へ情報提供を行いました。また、インスタグラム、X、ホームページ、YouTube、LINE、Web 広告等を活用し、支援対象者やその家族、関係者に情報が届くよう、幅広い周知広報に努めました。特に、職業訓練情報、イベント・セミナー情報、専門窓口の支援メニュー、合同企業説明会の案内動画など、媒体の特性を踏まえた情報発信を行っております。その取組の一つとして、訓練課では X において、「ミドルシニア活躍支援」専用アカウントを運用しております。本日お配りしている名刺は、そのアカウントをご案内するものです。昨年度の協議会では、女性キャラクターの「ミア」を掲載した名刺をお配りしていましたが、AI で作成した画像であったことから、著作権等への配慮により、仕様を見直すことといたしました。そこで今回は、ミドルシニア世代の皆さまに、福を招くような有益な情報をお届けしたいという思いを込めて、招き猫をモチーフにした新しい「ミア」を作成いたしました。今後も、このアカウントを通じて、ミドルシニアの皆さまの活躍支援につながる情報を発信してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。もしよろしければ、ぜひフォローもお願いいたします。

続きまして、令和 7 年度の KPI 達成状況についてご説明いたします。まず、ハローワーク紹介による 35 歳から 59 歳までの正社員就職件数については、目標 2,232 件に対し実績 2,046 件となり、達成率は 91.7%でした。目標には届かなかったものの、概ね達成したものと評価しています。一方、キャリアアップ助成金活用による正社員転換数については、目標 681 件に対し実績 777 件となり、達成率 114.1%と目標を上回る結果となりました。企業への周知や活用促進の成果が現れたものと考えております。

次に、サポステ関係の KPI についてです。35 歳から 49 歳までを対象とした相談件数は

目標 1,032 件に対し 356 件、新規登録件数は目標 74 件に対し 46 件、進路決定件数は目標 44 件に対し 16 件となりました。令和 7 年 4 月より受託事業所が変更になったことにより、目標には届かなかったものの、関係機関とのさらなる連携強化と周知広報の充実により、利用促進を図ってまいります。労働局からの説明は以上です。

(鹿児島県商工労働水産部雇用労政課 田之上課長)

続きまして、鹿児島県雇用労政課の田之上でございます。

出席の関係機関の皆様には、日頃より県の各般の施策の推進につきまして、ご理解・ご協力を賜り、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

【資料 3】に基づき、就職氷河期世代を含む中高年世代の活躍支援に向けた県の令和 7 年度実績及び令和 8 年度の取組について、関係する 3 課からそれぞれ説明させていただきます。私からは、【資料 3】の 40～48 ページについて説明をいたします。

まずは、40～42 ページまで、実施計画における商工労働水産部の取組状況を記載しております。支援対象者の相談窓口といたしましては、キャッチワークかごしまやここリスタ支援室を設置し、相談体制の充実を図っております。また、県立高等技術専門学校 4 校で実施する職業訓練に加え、民間機関に委託した職業訓練も実施しており、皆さまのスキルアップや新たなキャリアへの挑戦を支援しております。これらの各取組や活動等につきましては、県のホームページや公式 LINE、広報誌などを活用いたしまして、情報発信を行い、積極的に周知・啓発に努めております。令和 8 年度におきましても、これまでの取組を継続してまいります。就職氷河期世代を含む中高年世代の皆さま、お一人お一人の事情に配慮した支援メニューを構築し、各取組を推進していく考えです。今後とも一人でも多くの対象者の方々に支援を受けていただけるよう、各取組や活動の情報を積極的に届けてまいりたいと考えております。

続いて 43 ページをご覧ください。雇用労政課所管の長期無業者等就職促進・定着支援事業の実施状況について具体的に説明いたします。

(1) の相談体制の充実についてですが、本事業は、労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団に運営を委託し、相談から就労まで一貫した支援を行う窓口「ここリスタ支援室」を鹿児島市と鹿屋市に開設いたしました。キャリアコンサルタント等の専任職員による就職氷河期世代等の就労支援や定着支援を実施したところです。令和 7 年度の相談件数は 1,972 件となっており、関係支援機関からの誘導や出張相談などを積極的に実施した結果、目標数の 1,100 件に対し達成割合は 179.3%となっております。

(2) の新規登録者の状況ですが、相談者の掘り起こしのために、ホームページに加え、チラシなどの媒体も組み合わせながら広く周知を行った結果、令和 7 年度の新規登録件数は 102 件となっており、目標数 70 件に対し達成割合は 145.7%となっております。

(3) の進路決定の状況についてですが、令和 7 年度の進路決定件数は 46 件となっており、

目標数 28 件に対し達成割合は 164.3%となっております。就労後も定期的に電話等による相談を実施しており、就労定着に向けたフォローアップを行っております。このうち、就職に有利に働くよう職業訓練を受講した方が 1 名おられ、訓練受講後も継続して就労支援を行っているところです。

続いて 44 ページをご覧ください。今年度も国の施策に合わせ、就職を希望しながら、様々な事情により就職活動を行えていない就職氷河期世代等の中高年層を含む幅広い世代の長期無業者等を対象に、就職促進・定着支援を行っております。支援のスキームは、相談支援窓口「ここリスタ支援室」を鹿児島市と鹿屋市に設置し、専任職員による就職定着までの一貫した支援を行っております。令和 7 年度から、引き続き、アウトリーチ支援として、出水市や南さつま市、薩摩川内市など遠隔地での出張相談を実施するとともに、専用の WEB サイトにおいて広く情報発信を行っております。

資料 45 ページに評価指標 KPI を記載しております。就業者数、新規登録者数、相談件数の 3 項目を設置しており、就職者数は目標数 38 件に対し、令和 8 年 6 月末時点で 17 件と順調、2 番目の新規登録者数が目標数 100 件に対し 21 件、相談件数が目標数 1,800 件に対し 318 件と順調に推移しております。

本事業は国の地域就職氷河期世代等支援推進交付金を活用しており、46 ページに交付金の事業概要等を添付しております。赤枠部分が本県で実施している取組でございます。

続いて 47～48 ページをご覧ください。地域就職氷河期世代等支援推進交付金事業は、本年度に国が創設した交付金であり、県では長期無業者等就職相談窓口の設置事業に活用しております。今年度は、県以外に本交付金を活用している県内自治体はございませんが、交付金で実施する事業について、広く関係機関・団体等に周知し、利用促進等を図るため、交付金事業の実施主体や事業名、概要などを一覧として添付し、本協議会で情報共有させていただきました。

以上で、雇用労政課関係の説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

(鹿児島県保健福祉部社会福祉課 滝浪主幹)

続いて保健福祉部でございます。私は社会福祉課地域福祉支援係の滝浪でございます。

同じく【資料 3】の 50 ページをご覧ください。社会福祉課においては、「かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会事業実施計画」の、3 目標、KPI 及び具体的取組の(3)社会参加に向けた支援を必要とする方(ひきこもりの方等)への具体的な取組のうち、生活困窮者に対する相談支援体制の充実に係る取組をご説明させていただきます。

まず、令和 7 年度の取組状況についてご説明させていただきます。

(1) アウトリーチによる支援として、県の自立相談支援窓口を設置している相談員に加えまして、アウトリーチ支援員を計 2 名設置したところであり、その内訳は、大隅くらし・しごとサポートセンター及び北大島くらし・しごとサポートセンターに 1 名ずつとなって

おります。

次に、(2)の自立相談支援従事者に対する人材養成研修として、1点目が生活困窮者自立支援制度初任者研修を令和7年7月23日にオンラインにて実施し、25名の参加があったところです。2点目の生活困窮者自立支援制度人材養成研修を、令和8年2月19日と20日の2日間にて県社会福祉センターで実施し、40名の参加があったところです。

(3)の相談体制の充実としまして、福祉事務所を設置している、まず、①の市町村の自立相談支援窓口については、生活困窮者自立支援事業を実施し、事業ごとの実施市町村数は自立相談支援事業を25市町村、住居確保給付金支給事業を25市町村、就労準備支援事業を16市町村、居住支援事業を5市町、家計改善支援事業を18市町村、子どもの学習・生活支援事業を22市町村が実施したところです。②の県の自立相談支援窓口の新規相談受付件数は351件で、令和6年度から65件の減となったところです。③の県の自立相談支援窓口の人口10万人・1か月当たりの新規相談受付件数は22.8件で、令和6年度から3.6件の減となったところです。

続いて、令和8年度の取組についてご説明いたします。

(1)アウトリーチによる支援として、県の自立相談支援窓口を設置している相談員に加え、引き続き、アウトリーチ支援員を計2名設置しており、その内訳は大隅くらし・しごとサポートセンター及び北大島くらし・しごとサポートセンターに1名ずつとなっております。

(2)自立相談支援従事者に対する人材養成研修として、①の生活困窮者自立支援制度初任者研修を令和8年5月27日にオンラインにて実施し、37名参加があったところです。②の生活困窮者自立支援制度人材養成研修については、令和8年12月から令和9年2月の間での実施を予定しております。

(3)相談体制の充実として、福祉事務所を設置している市町村の自立相談支援窓口における生活困窮者自立支援事業の令和8年4月1日時点での実施状況としまして、自立相談支援事業を24市町村、住居確保給付金支給事業を24市町村、就労準備事業を16市町村、居住支援事業を5市、家計改善支援事業を19市町村、子どもの学習・生活支援事業を21市町村が実施しております。今年度における本事業の県のKPIにつきまして、②の県の自立相談支援窓口の人口10万人・1か月当たりの新規相談受付件数を27件と設定し、引き続き社会参加に向けた支援を必要とする方への相談支援体制の充実に努めてまいりたいと考えております。社会福祉課の説明は以上でございます。

(鹿児島県保健福祉部障害福祉課 住吉係長)

続いて、保健福祉部障害福祉課の住吉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。当課においては、社会参加に向けた支援を必要とする方として、主にひきこもりの方等の支援について、相談支援体制の充実と相談支援に係る人材育成、資質向上に取り組んでおりま

す。

まず1つ目ですが、50 ページの下の部分をご覧ください。ひきこもり状態にある方やその家族が、より身近な市町村において容易に相談できる環境を整備するために、市町村の相談窓口を明確化し、広報等による住民への周知を図ることとし、令和7年度の取組は、県内市町で作成する広報紙に、ひきこもり支援に関する相談窓口や相談会に関するお知らせを掲載するほか、窓口及び関係機関でのリーフレット等の設置・配布等を行ったところでございます。今年度につきましても、同内容で取組を進めてまいります。

続いて2つ目です。51 ページをご覧ください。ひきこもり地域支援センターの機能を強化し、市町村の窓口や関係機関に対する専門的なアドバイスを行うとともに、ひきこもり状態にある方やその家族への取組を支援することとし、令和7年度の相談件数は803件で、令和6年度より相談件数は増加しております。相談者別割合は、本人からの相談が最も多く、相談者の年齢は30代、20代が多くを占めております。今年度につきましても、ひきこもり地域支援センターが定期的に行う市町村担当窓口等への訪問や電話相談において、支援者へ専門的なアドバイス等を行うとともに、定期的に開催する家族会等の交流の場の提供や巡回相談により、ひきこもり状態にある方やその家族への取組推進を行ってまいります。

続いて3つ目です。ひきこもりの状態にある方やその家族からの相談等に対応するため、市町村レベルでのプラットフォーム形成の働きかけを行うこととし、令和7年度は未設置の市町村へ働きかけをし、設置数が34市町村から38市町村に増加しております。今年度につきましても、プラットフォーム未設置の市町村に対して働きかけを実施してまいります。

最後になりますが、市町村等における支援の充実が図られるよう、ひきこもり地域支援センターや県精神保健福祉センターにおいて、市町村等の支援者を対象に、支援に必要な知識や技術の習得に関する研修等を実施することとし、令和7年度は支援者を対象とした研修会等を実施したところです。今年度につきましても、相談支援にかかる人材育成、資質向上のための研修会を実施してまいります。以上です。

(事務局)

続きまして、九州経済産業局における取組について、ご説明をお願いいたします。

(九州経済産業局地域経済部産業人材・デジタル経済室 春口室長)

九州経済産業局の春口と申します。本日は紹介のお時間をいただきまして、ありがとうございます。私どもは、雇用対策や雇用支援というよりも、中小企業が人材確保や採用等に、今、非常に困っている状況にあることから、どう企業の魅力を発信し、それを求職者の方々

に伝えていくのかの支援を行う中で、マッチング支援などに取り組んでおります。令和7年度に関しましては、企業の成長戦略や経営計画に基づき、本当に必要なのはどのような人材なのか、また、それが必ずしも雇用でなければならないのか、例えば副業・兼業人材の活用でもよいのではないかという観点や、現在の労働市場の状況を踏まえ、新規採用について限界を感じている企業も少なくないことから、経験者採用やその他の手法、さらには採用に代わるツールがないのかという観点なども含めて伴走し、最終的にはジョブマッチングまでを実施する一気通貫の支援を実施しました。結果として、中高年層に限ったものではありませんが、45名の内定につながっております。そのうち、40代、50代の方が17名と、比較的多くの中高年層とのマッチングにつながっております。また中高年層に限らず、外国人材の活用の推進や、人材確保が困難な企業に対しては人材確保以外の手段、例えば生産性向上をやっていきましようとか、そのためのデジタル化というところも考えていきましよう、というようなところも含めて、どうしたら経営計画の実現に資するかというような視点も取り入れてサポートさせていただいているところです。今日、非常に充実した皆さまのお取組や、多くの情報をいただきましたので、今年度、私どもが持っているメールマガジン等も使いまして、広く周知を行っていきたいと思っております。ありがとうございます。

（事務局）

続きまして、鹿児島県地域若者サポートステーションにおける取組について、ご説明をお願いいたします。

（鹿児島県地域若者サポートステーション 福岡所長）

鹿児島県地域若者サポートステーション、通称サポステと呼ばれるところから参りました福岡です。まず初めに、令和7年度からサポステ事業の運営を開始いたしました。事務所立ち上げからホームページの開設など、本当にゼロからのスタートでしたが、ここにお集まりの皆様方をはじめ、多くの方々からの支援により、現在は国の計画に沿って順調に事業運営を行うことができるようになりました。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。

それでは、資料の54ページです。まず、簡単にサポステについて説明いたしますが、青少年の雇用の促進等に関する法律に基づき、全国に179か所、当県では鹿児島市、霧島市、奄美市の3か所に設置しております。支援対象者は15歳から、今回メインになっている就職氷河期世代を加えて49歳までの若年無業者のほか、無業になる前の段階での支援として、進路が決まってない学生、不安定な就労を繰り返している若年者、その中でも一年半以内を目途に、正社員など安定した就職を目指す方が対象者となっております。

資料（2）相談体制の充実。専門相談員による個別相談及びキャリアコンサルティングのほか、安定した職業についていただくために、各種セミナー、職場体験など17コースのメ

ニューを設置しております。本人の課題や状況に応じて、原則マンツーマン伴走型で職業的自立を目指すことにしております。また、若年無業者やその予備軍の方を、早期に把握し支援するため、学校、福祉関係、そしてハローワークの皆様方と定期的な情報交換、連絡会議を行っているところです。

令和7年度の取組状況ですが、1事業実績としましては、新規登録者数が156人、そのうち35歳以上の方が46人、全体の29.4%でした。就職等件数は56人、そのうち35歳以上が16人、就職率は全体で35.9%、35歳以上が34.8%という結果になりました。2相談支援事業の(1)基盤支援メニューでは、個別相談を、延べ1,241回実施し、その相談の中で働くことの動機づけ、自己理解を深めるための支援をしました。(2)実践的支援メニューでは、キャリアコンサルティングを1,241回実施し、その中で就職活動等の支援で職場体験を実施いたしました。

令和8年度の取組においては、1事業目標、2相談支援事業について、概ね前年度と同じような目標になっています。令和7年度は準備や引継ぎ者が少なく、一からのスタートであったため、結果として支援の途中段階にあったことから、就職実績等は一時的に低くなっておりましたが、現在、新規事業者も増え続け、昨年度から継続して支援している方々も次々と就職など成果につながってきております。今年度第1四半期の実績で比較してみると、新規登録者数目標220人に対して78名、35.5%達成しており、このままいけば、令和8年度については目標が達成できるのではないかと考えています。また、就職氷河期世代の方々への支援につきましては、引き続き、ハローワークの35歳からのステップアップ窓口やここリスタ支援室など、より緊密に連携し、相談支援体制を充実させていきたいと考えております。

(4) 全般的事項について、気運醸成のために周知・啓発にも力を入れてまいりました。令和7年度は関係機関に周知をお願いするとともに、リーフレットなど26,000枚を作成し、ハローワーク主催の雇用保険説明会や相談窓口等で配布いたしました。また、支援対象者一人ひとりに対するメッセージを届けるため、令和7年5月に専門のホームページを開設。その後、ホームページを見てから相談に来られる方が少なかったため、12月にリニューアルしました。出張相談やセミナーの日程を確認できるイベントカレンダー、ホームページから直接「相談予約」ができる仕組みを整備し、併せて公式LINEアカウントも開設しました。相談予約の受付や簡易な相談に迅速に対応できるようにリニューアルいたしました。昨年12月以降は、着実にお問い合わせ、予約申込が増加し、リニューアルの効果を実感しているところです。説明は以上になります。

(事務局)

続きまして、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構鹿児島支部における取組について、ご説明をお願いいたします。

(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構鹿児島支部 渡辺課長)

高齢・障害・求職者雇用支援機構鹿児島支部の渡辺と申します。日頃より皆さまにご理解ご協力賜りましてありがとうございます。

では、私の方から 55 ページの資料に基づいてご説明させていただきます。当機構では、ポリテクセンターの業務としまして、施設内の職業訓練を行っております。ものづくり分野の職業訓練を行っており、昨年度の取組におきまして、ものづくり分野 7 個のうち、概ね 55 歳以下の方を対象とした企業実習付きコース、電気工事実践科を実施し、18 名の方に入っていて、就職率 91.7%、うち正社員就職率 100%となっております。ポリテクセンターの職業訓練自体はどなたでも受講いただけます。やはり中高年世代において、関連職種の経験がちょっと浅い方も、少なくない状況です。そういった方にとっては、企業実習付きで、その企業で経験を積んでいただいた上で、前に進んでいただくことが非常に重要と思い、今回こちらのコースについてご紹介いたしました。

また、ポリテクセンター内におきましても、就職支援室にて、キャリアコンサルタントが応募書類の作成、面接の対策、そもそもどういった方向に進んでいくのか、そういったところにも寄り添いながら、より良いマッチングにつながるように支援しております。一方で、民間の教育訓練機関が実施する特定求職者向けの職業訓練である求職者支援訓練のカリキュラムの認定、及び適切に実施しているかという確認業務もしております。令和 7 年度については、1,025 人分の認定をいたしまして、主な分野は、営業販売事務、医療事務、また介護になります。また最近では、デジタル分野、WEB デザイン分野、IT 分野の訓練コースを行っております。資料にも記載があるとおりの、こちらの訓練については、教育訓練機関に足を運んで学ぶ、その他に e ラーニングで学ぶということで、お住まいの地域に訓練施設がない、希望するコースがない方にもご利用いただける訓練コースとして設定しております。

今年度につきましても同じように実施をする予定としております。56 ページ、57 ページに掲載している広報チラシは、まずはものづくり分野に関心を持っていただきたい、そして、職業訓練についてもより関心を持っていただきたいという思いで作成しました。ハローワークをはじめ、関係機関を通じて周知を行っております。訓練を受講するまで、職業訓練を知らなかった、ご自身の選択肢には入っていなかったという方が多数いらっしゃいます。ぜひ、職業訓練を知っていただける機会を増やしたいと思っております。また、58 ページのとおり、求職者支援訓練の認定コース一覧を作成し、各教育訓練機関が作成するリーフレットと併せて幅広く周知を行っております。多様な機会を通じて職業訓練の利用促進に取り組んでおります。

今年度も、労働局と連携しながら職業訓練制度の認知度向上に取り組んでおります。引き続き、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。私からの説明は以上となります。

(事 務 局)

続きまして、その他の構成員として、鹿児島県中小企業団体中央会及び日本労働組合総連合会鹿児島県連合会から取組について、ご説明をお願いいたします。

(鹿児島県中小企業団体中央会 福山事務局長)

鹿児島県中小企業団体中央会の福山と申します。当会の取組につきましては、59 ページに記載しております。当会は、中小企業支援機関であり、支援対象は中小企業者になります。労働者、就労希望している方に直接働きかける取組は行っておりません。あくまで、中小企業が抱える課題の解決のお手伝いをしている団体です。やはり中小企業が抱える課題の中でも、人材不足、労働者不足というのが一番喫緊の課題となっており、人材確保、人材育成に対する関心は非常に高くなっております。このため、当会では、中小企業者向けに、講習会や研修会を開催しております。ただし、本会議の対象となる中高年世代だけをフォーカスした取組はしておらず、中高年世代、若年者、高齢者、障害者、また外国人、多様な人材を活用して、中小企業の経営を高度化していきましょうという取組を行っております。

また、資料にはキャリアアップ助成金等の周知ということで記載しておりますが、当会では業務改善助成金、働き方改革推進支援助成金など、鹿児島労働局が所管する各種助成金のほか、経済産業省や鹿児島県の補助金など、中小企業の生産性向上につながる補助金等を幅広く周知しております。その一環として、キャリアアップ助成金についても周知を行っているというところです。なお、資料上は各項目を分けて記載しておりますが、すべて同じような取組をしております。あと、情報誌、ホームページ、メルマガ等で各種助成金等については案内しております。以上です。

(事 務 局)

続きまして、日本労働組合総連合会鹿児島県連合会から取組について、ご説明をお願いいたします。

(日本労働組合総連合会鹿児島県連合会 上蘭事務局長)

連合鹿児島の上蘭と申します。私どもの取組は、2 つあります。1 つ目は労働相談です。働いている上で会社の処遇改善や、ハラスメントについて相談を受けます。そのような相談者の方々は、結果的に退職してしまうケースが多く、引き続き同じ会社で働き続けられる方はほとんどいらっしゃいません。そのため、まず次の就職先についてどのように考えているのかをお聞きしています。今日いただいたパンフレット等を使用し、年齢に合わせて、いろ

いろな取り組みをされていますよと説明し、早期の再就職につながるよう情報提供しております。2つ目は、毎月1回、各構成組織に集まってもらって会議をします。それぞれの構成組織で、「やはり募集しても人が来ない」といった意見が多いため、各種助成金を使いながら、従業員の確保に向けて取り組まれたらどうですか、みたいな形で提案しています。また本日いただいた資料についても、今月末に開催予定の会議において、各構成組織の方に、情報提供を行いたいと思っています。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。労働局、鹿児島県、九州経済産業局、鹿児島県地域若者サポートステーション、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構鹿児島県支部、鹿児島県中小企業団体中央会、日本労働組合総連合会鹿児島県連合会から取組状況等につきまして説明がありましたが、このことにつきまして、ご意見ご質問などございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。ご質問、ご意見は後ほどでも結構ですので、また改めてお聞かせいただければと思います。

それでは、続きまして、事例の紹介に移らせていただきます。はじめに、専門窓口を設置しているハローワークかごしま・ワークプラザ天文館、次に鹿児島県地域若者サポートステーションの順で説明をお願いいたします。

(ハローワークかごしま・ワークプラザ天文館 川上部長)

ハローワークかごしま・ワークプラザ天文館の川上と申します。日頃より職業安定行政の業務推進につきまして、ご協力をいただき誠にありがとうございます。この場をお借りしまして感謝を申し上げます。今後とも、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

私の方からは、「ミドルシニア世代に対するハローワークかごしまステップアップ専門窓口の取組」について、支援メニューと事例を交えながらご説明いたします。

ミドルシニアの支援としまして、鹿児島商工会議所ビル、アイムビル6階の「ワークプラザ天文館」に「ステップアップ専門窓口」を設置しており、就労・生活支援アドバイザー、就職支援コーディネーター、職業相談員の3名体制で支援を実施しております。支援メニューにつきましては、35歳以上59歳以下の就労経験の少ない方や就業ブランクが長い方など、すぐ就職活動を進めることが難しい方に対しては、同じ担当者による継続的な個別支援を行っております。まずは、就職に対する不安の軽減や意欲の喚起、自己理解の促進を図りながら支援を進め、その後、就職支援セミナー、職業訓練等の活用を提案しております。また、応募の段階では、応募書類の添削や模擬面接など、就職に向けた実践的な支援を行っております。さらに、就職後の職場定着を支援するため、就職後の仕事の悩みや困りごとに関する相談にも対応しております。また、ハローワーク全体としては、ミドルシニア世代向け

求人確保にも取り組んでおります。あわせて、アイムビル3階のキャッチワークかごしまや、本日まで出席いただいております地域若者サポートステーションをはじめとする関係機関の皆さまと連携しながら、就職支援を行っております。

それでは、【資料4】の支援事例をご紹介します。相談者は、40代男性の方です。大学時代はアルバイト経験があるものの、大学時代の就職活動が十分できなかったことや、就職への不安から、長期間の引きこもり状態になっていました。ご家族の勧めや、近親者の他界をきっかけに、これではダメだとかご本人様が思われて、当プラザに来所され、専門窓口をご利用されました。

初回来所時に、まず、就職活動そのものではなくて、社会とのつながりを取り戻すことや生活リズムの安定を目的として、週1回来所を提案し、定期相談を実施しました。継続的な面談の中で、小さな行動の変化や前向きな取組を積極的に認め、賞賛しながら、相談者の自己肯定感や就労意欲の向上を支援いたしました。また、就労経験が少なく、自分に合う仕事が見つからないという課題があったため、キャッチワークかごしまと連携して適職診断を実施し、結果を勘案してプログラミング、CAD、電気工事士を希望されたため、職業訓練の説明会への参加を提案しました。その結果、ポリテクセンターの「CAD/NC技術科」を希望され合格しました。訓練にも意欲的に取り組まれ、職業訓練期間中も専門窓口を積極的に利用し、職業相談や職業紹介、応募書類の作成支援、模擬面接などを活用しながら就職活動を進めることができました。最終的には、訓練校の先生からの紹介をきっかけに機械金属加工オペレーターとして採用され、就職に結びつきました。今現在も頑張っているようです。

この事例から、長期間社会との接点が少なかった方に対しては、早期の就職を急ぐのではなく、継続的な相談による信頼関係の構築、小さな成功体験の積み重ね、新たなスキルを身につけるための職業訓練、そして関係機関との連携が重要であることを改めて実感しております。事例につきましては、以上です。

窓口や事業所訪問等の際、ミドルシニア世代向け求人の提出をお願いしておりますが、当該世代の方のみを対象にした「限定求人」は、依然として数が少なく、求職者の方々にとって十分な選択肢があるとは言い難い状況です。皆さまにおかれましては、事業主の皆さまが人材を求めているという情報がございましたら、ハローワークの利用と併せて、ミドルシニア世代向け求人の提出もぜひお声かけいただけますと幸いです。ミドルシニア世代の方々が、それぞれの状況や希望に応じた就職を実現できるよう、今後も関係機関の皆さまと連携しながら、きめ細やかな支援に取り組んでまいります。また、ハローワークかごしまとしても、いろいろな支援に取り組んでおりますので、引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(鹿児島県地域若者サポートステーション 福岡所長)

まず初めに、事例を見ていただく前に、私どもサポステでは、支援にあたって主に3つのことを意識して取り組んでおります。まず1つ目は、自己理解を深め、自信を回復する支援

を行うことです。2 つ目は、本人の状況に合わせたスモールステップによる支援です。無理をせず、小さな階段を一步ずつ上がっていくように、私どもが伴走しながら支援をしていくことを大切にしています。3 つ目は、関係機関と連携し、支援を途切れさせないことです。この3つを意識しながら、日々支援に当たっております。本日は、私どもサポステとともに安定した職業への一步を踏み出した、2 名の方の事例を紹介させていただきます。

【資料5】をご覧ください。事例①、「49 歳男性」のケースを紹介いたします。対象者は10 年以上にわたりお仕事はされず、親御さんの介護に専念されていきました。親御さんが逝去された後、生活が困窮し、おひとりでは就職活動に踏み出せないと、昨年10 月に鹿児島市社会福祉協議会のソーシャルワーカーに同行され、サポステに来所されました。対象者が抱えていた課題は、10 年間という長いブランクにより自信の喪失と健康不良の2 点でした。なお、健康不良の主な原因は、後に運動不足であることが分かりました。3 支援内容の(1) 基礎的支援メニューとして、まずは本人の自立性を尊重し、自信を回復するところからスタートしました。その後、ジョブ・タグ等を活用して、自己分析と労働市場の分析を並行して行い、マッチングを何度も行いながら、興味があり、本人ができそうな仕事を一緒に探してまいりました。さらに、運動不足による腰痛を解消するために、生活改善計画を一緒に作成し、サポートを行いました。その後、(2) 実践的支援メニューに移り、就職の可能性を高めるために、公共職業訓練の受講を決意されました。興味を持たれていた清掃の仕事に就くため、ポリテクセンター鹿児島の「ビル管理技術科」の説明会に参加されました。また、キャリアプランを作成し、キャリアプランをもとに訓練応募の願書作成や選考面接の対策にも一緒に取り組みました。その結果、「4 成果と今後の展開」に記載があるとおり、訓練選考を無事に通過し、令和8 年4 月から訓練が開始されています。現在は、月に2 回程度、サポステにも来所していただいております。訓練の状況報告、ノートのとめ方、他の訓練生との関わり方などについて、継続してフォローを行っております。訓練終了は9 月ですが、訓練修了後すぐに就職したいという本人の強い希望を受け、先月から就職活動のサポートも開始いたしました。本人は、興味のある清掃作業員として正社員を目指しており、まずは正社員登用制度があるビル管理会社でアルバイトなどの経験を積み、少しずつステップアップしていきたいという希望を持っておられます。職業訓練ではポリテクセンター様大変お世話になっております。就職支援も含めて、今後も引き続き連携をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、事例②「40 歳男性」のケースを紹介いたします。対象者は、これまで短期間の就労を繰り返してきたことで自信を失い、2 年間にわたりひきこもり状態に陥っていました。見かねたご家族の後押しもあり、昨年5 月、鹿児島市生活自立支援センターからの紹介でサポステに来所されました。対象者が抱えていた課題は、最初の面談では、本人が「自分は働けない」「ダメ人間だ」「就職なんて無理だ」と思い詰めており、当初はそれを聞くという傾聴に徹するところから支援を始めました。3 の支援内容(1) 基礎的支援メニューとしては、まず本人との信頼関係を築こうということで、気持ちに寄り添い、伴走しながら、

悩みに対する解決策を一緒に考えました。最初のうちは予約を入れても来所できない日も多くありましたが、電話でも丁寧にお話をし、来所を促すなど努力してまいりました。やがて、信頼関係が築かれると、多い週は2回、自分で作ったコーヒーを持って来所して下さるようになりました。対話を重ねる中で、自己理解が深まり、自信も回復し、将来の展望が持てるようになりました。その後(2)実践的支援メニューをワークプラザ天文館と連携を図りながら就職活動を開始した結果、来所から4か月後には、「すぐに働きたい」と就職活動にも意欲的に取り組むようになりました。さらに、その1か月後には、ビル管理会社へ清掃や排水管理業務のパートタイムでの採用が決定しました。現在は、フルタイムで勤務されており、令和8年4月には、日頃の働きぶりが経営者に認められ、正社員登用の制度はないものの、「正社員にならないか」と打診をいただいたとの報告も受けました。先月実施した定着面談では、経営者に認められたことが大きな喜び・励みになったようで、現在は車を持っていないため、「貯金が貯まったら自動車学校に通い、正社員を目指す」という目標を掲げておられました。また、サポステに面談に行くために有休を申請したところ、経営者の方から「有休は取らなくていいぞ。勤務時間に行ってこい」と言われたことも非常に嬉しかったとのことで、サポステにも報告がありました。正社員登用まではまだしばらくかかりそうですが、安定した就職に向けて、意欲的に前進しているのではないかと感じております。

以上、2名の事例の紹介をさせていただきました。2名とも長期間の無業や離職経験から自信を失っていましたが、本人の気持ちに寄り添い、できることから一步步取り組むことで、就職や職業訓練につながったのではないかと考えております。サポステでは今後とも関係機関と連携しながら、一人ひとりの状況に合わせた伴走型支援に取り組んでまいります。以上で発表を終わります

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、これより意見交換に入りたいと思いますが、ただいまご説明いただいた内容につきまして、ご質問・ご意見などございませんでしょうか。

本日ご説明いただいた内容につきまして、何でも些細なことでも結構ですので、何かございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。また何かありましたら、いつでも事務局の方へご連絡ください。

それでは、最後に事務連絡を申し上げます。

鹿児島労働局は、令和8年11月16日より山下町の鹿児島合同庁舎へ移転・統合いたします。当課の電話番号につきましては、変更となります。詳細につきましては、本日お配りしてありますリーフレットをご覧くださいとともに、最新の情報は鹿児島労働局ホームページにてご確認くださいませようお願いいたします。

また、次回の協議会につきましては、12月頃の開催を予定しております。時期が参りま

したら改めてご案内申し上げますので、よろしくお願いいたします。

本日のご説明いただいた内容やご意見等を踏まえまして、中高年世代の方々への支援の充実に取り組んでまいります。今後とも、委員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上をもちまして、第2回「かごしま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会」を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。

なお、経済団体の皆さまにおかれましては、この後開催いたします「公正採用選考人権啓発協力員会議」へのご出席もお願いしております。準備の都合上、15時45分から開始予定としておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。